

ドミニカ共和国

北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画

中間評価調査に係る協議議事録

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、ドミニカ共和国北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画（以下、プロジェクト）の中間評価を行うために、佐佐木健雄氏を団長とする中間評価調査団（以下、調査団）を2007年7月29日から8月16日までドミニカ共和国に派遣した。

滞在期間中、調査団はドミニカ共和国政府関係者と合同評価委員会を形成し、現場踏査、関係者インタビュー、ワークショップ等の活動を通じ、プロジェクトの中間評価を行った。

中間評価の結果は、別添の報告書にまとめられ、8月15日に開催された合同調整委員会で報告された。日本国側とドミニカ政府関係機関は、その内容を受入、報告書に記載された提言について、付属文書に記載されているとおり、必要な対応を取ることに合意した。

サントドミンゴ 2007年8月15日

佐佐木健雄	Salvador Jiménez
独立行政法人国際協力機構（JICA）	ドミニカ共和国
中間評価調査団 団長	農務省 農務大臣

吉元 清	Rafael Pérez Duvergé
独立行政法人国際協力機構（JICA）	ドミニカ共和国
ドミニカ共和国事務所 所長	ドミニカ農牧林研究所 長官

付 属 文 書

1. ドミニカ共和国側及び日本国側は、別添 1（73 頁）の中間評価報告書の内容を理解し、その提言の実現に向けて必要な対策を取ることに合意した。
2. ドミニカ共和国側及び日本国側は、プロジェクト・デザイン・マトリクス（PDM）を、別添 2（109～110 頁）のとおり第三版に改訂することに合意した。しかしながら、JICA の投入予算規模には限りがあるところ、協力は予算の範囲内で行われる。
3. ドミニカ共和国側及び日本国側は、改訂された PDM に基づいた活動計画（PO）案を、別添 3（111～114 頁）のとおりとすることに合意した。ただし、同案の詳細については、プロジェクトで分析の上、本年 8 月中に IDIAF 長官の承認を得ることとする。
4. ドミニカ共和国側及び日本国側は、（プロジェクト）実施体制図を、別添 4（115 頁）のとおりとすることに合意した。

- ・ 別添 1. 中間評価報告書
- ・ 別添 2. プロジェクト・デザイン・マトリクス（PDM）Version 3
- ・ 別添 3. 活動計画（PO）改定版（案）
- ・ 別添 4. 実施体制図改訂版

ドミニカ共和国

北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画

中間評価報告書

サントドミンゴ、2007年8月15日

合同評価委員

佐佐木健雄

_____ Henry Guerrero

及川隆光

_____ Miguel Tatem

長町昭

_____ Julio Morrobel

瀧口暁生

_____ Ismael Batista

目次

1.プロジェクトの概要

- (1) 背景
- (2) プロジェクトデザイン (PDM、PO)

2.評価の目的

3.評価の手法

- (1) 評価の手法
- (2) 合同評価

3.プロジェクトの実績と実施プロセス

- (1) プロジェクト目標の達成状況
- (2) 成果の達成状況と活動の進捗状況
- (2) 投入実績
- (3) 実施プロセス

4.評価結果

- (1) 妥当性
- (2) 有効性
- (3) 効率性
- (4) インパクト
- (5) 自立発展性

5.結論

6.提言

- (1) 直ちに取りべき対策
- (2) 将来的に望まれる対策

添付資料

- 1. PDM (Version 2)
- 2. 成果実績確認表
- 3. 活動実績・成果表
- 4. 投入実績

1. プロジェクトの概要

(1) 背景

ドミニカ共和国において、農業は伝統的基幹産業であるが、農民の約 90%が中小農家であり技術や市場へのアクセスが不足していること、化学肥料や農薬等の集中使用による土壌の劣化が著しく生産性の低下を招いていること等の問題を抱えている。

かかる状況下、農務省は、持続可能な農業への転換を目指すとともに、市場競争力を持たない小規模農家が、家族労働力や未利用資源を活用して付加価値の高い環境保全型農産物を生産・販売することにより、収入の向上を図ることを目的として、2002年8月に技術協力プロジェクトを日本国に要請するとともに、北中部に位置するラ・ベガ農業区において、農業普及員や複数の農家を対象に、環境保全型農業技術に係る研修を開始した。これに対し日本国は当初 JICA シニア海外ボランティア及び青年海外協力隊員（以下、協力隊員）を派遣し支援を行った。

その後、技術協力プロジェクトとして開始するにあたり、事前評価が行われた結果、農牧林研究所を中心に実施体制を見直すことで双方が合意し、2004年10月15日に農務大臣と JICA ドミニカ共和国事務所長により R/D が署名され、同日から5年間の予定でプロジェクトが開始した。

(2) プロジェクトデザイン (PDM)

プロジェクトのデザインは、添付資料1に示すプロジェクト・デザイン・マトリクス (PDM Version 2) のとおりである。

2. 評価の目的

本プロジェクトの協力期間は、2004年10月から2009年10月までの5カ年計画であるが、本評価調査はその中間時点にあたる。評価調査の目的は、プロジェクトの計画に対し計画の進捗状況を確認するとともに、以下の3項目である。

- 1) プロジェクト計画の見直しの要否の判断
- 2) 見直しが必要と判断された場合はその修正を行うこと
- 3) プロジェクト運営体制の見直しを行うこと

3. 評価の手法

(1) 評価手法

評価手法は、JICA 事業評価ガイドラインに基づき、プロジェクトの計画と実績を比較し、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の視点の内、特に妥当性と有効性に重点をおいて評価を行うこととした。

また、評価に先立ち、日・ド双方でプロジェクトの計画について理解を共有するため、日本国側及びドミニカ共和国側のプロジェクト関係者並びに評価委員とともに、プロジェクトの PDM の内容（ロジック、明確さ、目標達成の可能性等）についてワークショップ形式で確認した。

(2) 合同評価

プロジェクトの評価は、日本国側調査団とドミニカ共和国側の各4名の評価委員による合同評価で行われた。なお、ドミニカ国側評価委員の選出はプロジェクト実施機関の IDIAF が行った。評価委員は以下のとおり。

(ドミニカ共和国側)

Henry Guerrero

農業競争力部長 (Encargado de la Unidad de Agricultura Competitiva)

国家農牧林研究審議会 (Consejo Nacional de Investigaciones Agropecuarias y Forestales)

Miguel Tatem

計画管理評価部長 (Encargado de la Unidad de Planificación, Seguimiento y Evaluación)

農牧林研究庁北部センター (Centro Norte, Instituto Dominicano de Investigaciones Agropecuarias y Forestales (IDIAF).)

Julio Morrobel

計画管理評価部次長 (Encargado de la Unidad de Planificación, Seguimiento y Evaluación)

農牧林研究庁北部センター (Centro Norte, Instituto Dominicano de Investigaciones Agropecuarias y Forestales (IDIAF).)

Ismael Batista

国際協力分析官 (Analista de Cooperación Internacional)

経済企画開発省 (Secretaría de Estado de Economía, Planificación y Desarrollo)

(日本国側)

佐佐木 健雄 JICA 農村開発部第二グループ畑作地帯 第二チーム長

及川 隆光 鯉渕学園農業栄養専門学校 教授

長町 昭 国際開発高等教育機構 事業部次長

瀧口 暁生 JICA ドミニカ共和国事務所 所員

4. プロジェクトの実績と実施プロセス

(1) プロジェクト目標の達成状況

同目標には二つの指標が掲げられている。

一つ目の指標「対象農家 250 戸の収入が 15% 増加する」に対する調査時点での達成状況は、計画時点での農家収入のベースラインデータが存在しないため、達成度の判断は困難である。

二つ目の指標「対象農家の 50% がプロジェクトの流通事業に参加し、農産物の販売量が 20% 増加する」に対する調査時点での達成状況については、ラ・ベガ

市内の INESPRES（価格安定庁）に設けた生産者市場に出荷することを農家に働きかけたが、かかる方向性での作業は有効ではなく、販売量の増加にはつながらなかった。

(2) 成果の達成状況と活動の進捗状況

上記プロジェクト目標の達成のために以下の3つの成果が掲げられている。

- 1) ラ・ベガ地域に適合した環境保全型農業及び有機農業技術が開発・実証される。
- 2) 小農に適合した低コストで生産性の高い農業技術と、環境保全型農業の技術が普及・実践される。
- 3) 対象農民の市場へのアクセスが改善される。

各成果達成のためには必要な活動の進捗が主要な要因であることから、各活動の進捗状況をプロジェクト作成の報告書、研究・普及関連の成果品並びにプロジェクト関係者からの聞き取りにより確認したところ、各種活動が進捗していることが確認されたが、十分な成果の発現にはつながっていない。

なお、成果の達成状況及び活動実績の詳細は、添付資料2及び3に示すとおり。

(3) 投入実績

投入実績は、添付資料4に示すとおり。

(4) 実施プロセス

複数の関係者より、プロジェクト実施過程において、情報伝達、モニタリング及び意思決定が適切になされなかったことが指摘された。

5. 評価結果

(1) 妥当性

1) 上位目標の妥当性

ドミニカ共和国政府は、農村部の発展及び貧困との戦いを重要課題と位置付けており、小農支援と有機農業の推進を優先課題としている。本プロジェクトは、こうしたドミニカ共和国政府の政策に合致している。

また、農務省研修普及担当次官との面談において、環境保全型の農業の推進は、同国の経済発展及び環境面に鑑み極めて重要であり、農民支援については、農家へのインタビューにおいても、彼らのニーズに極めて合致していることが確認されたところ、妥当性は高いと判断される。

2) プロジェクト目標の妥当性

農務省次官の調査団に対する発言においても、国内の主要農業地域の一つであるラ・ベガ地域における環境保全型農業振興に対する日本国の協力は、高く評価されており、また、農家収入の向上と農産物流通を推進することを目指すプロジェクト目標は、政府の政策と農民のニーズに合致しており、妥当性は高いと判断される。

(2) 有効性

プロジェクト目標として、農民の収入向上の達成が掲げられているが、本件については、プロジェクト関係者とのワークショップにおいて、プロジェクト期間中に農家の収入向上を図るためには、PDMに記載されていない重要な手段（農家の農産物生産量増加、生産性向上、高品質農産物の市場への出荷等）を達成することが必要である。しかしながら、プロジェクト期間内にこれを達成することは困難であることから、プロジェクト目標の変更が必要であるとの考えが、ほぼ全員の見解であることが確認され、その目標を「対象農家が環境保全型農業により生産した作物を、高級市場にコンスタントに供給する能力がある」と修正する案を、合同評価調査団に提案した。同提案は、現状のドミニカ共和国側の実施体制と、日本国側の投入に鑑み、実現可能性がより期待できることから、妥当な提案であると判断される。

(3) 効率性

物的投入に関し、日本国側のローカルコスト負担として建設されたプロジェクト事務所、試験圃場の温室や灌漑システム、普及員の活動に欠かせないオートバイや四輪駆動車輛等の機材は、いずれも有効に活用されていることが確認されたが、CENTA（Centro de Tecnologia Agricola）に供与された分析機材については、同センターの整備が遅れたことから活用が十分であったとは言えず、今後の有効な活用と適切な維持管理が求められる。

人的投入に関し、プロジェクト開始から長期専門家の着任まで7カ月要したこと、また、参加型開発計画短期専門家が長期専門家着任前に派遣され、長期専門家にその成果が十分引継がれなかったことが、効率性を低めた要因として挙げられる。

また、プロジェクト実施体制が実施機関の組織体制と調和していなかったこと、実施プロセスにおいて、情報伝達及びモニタリングが適切になされなかったことが指摘されており、適時適切な意思決定を阻害したと考えられる。

さらに、活動計画（PO）が、成果を得るための活動としてロジカルに整理されず、かつ個々の活動で求める成果品が明確に設定されていなかったことから、投入及び活動が効果的に成果に結びつかなかったと判断される。

(4) インパクト

プロジェクトはいくつかの実績を残しているが、現在のところ、プロジェクト実施により発生したインパクトは確認されなかった。通常インパクトはプロジェクト実施後に表れるものである。

(5) 自立発展性

自立発展性については、本プロジェクトでは研究部門と普及部門の円滑かつ有効な連携がキーポイントと考えられる。ドミニカ側の実施体制は、研究部門はIDIAFの研究者が、普及部門は農務省（SEA）からIDIAFへの出向者である普及

員が担当しているが、これまでのところ、両部門間での十分なコミュニケーションや連携が図られていなかった。今回の調査の中で行われたワークショップを通じて、両者の意思疎通が促進され、お互いの役割を理解するきっかけとなったが、プロジェクトの残り期間で、さらに相互が協調し、一体となって問題解決にあたるのが、自立発展性の鍵となると思われる。

6. 結論

本プロジェクトの目標である「環境保全型の農業の推進」と「小農支援」は、2007年にドミニカ共和国の農務省と環境省が発表した「農業農村開発政策」に合致している。他方、本件の対象地域であるラ・ベガ地域は主要農業生産地域であり、面談した複数の関係機関の高官からも、環境保全型農業振興に係る日本国の貢献が高く評価されていることから、本件プロジェクトの妥当性が高いことが確認された。

成果については、いくつかの点で実績が確認はされているが、収入向上を目指すプロジェクト目標が、5年間のプロジェクト期間に達成するには高い目標であり、同指標をとることは、データ記帳の習慣の無い農家では現実的ではないことから、PDMの目標の見直しが必要である。

活動実績については、実証分野で2編の技術情報が、IDIAF北部センターの技術委員会で承認され、3編が審議中、日本国側関係者の4編を含め6編が審議準備中であり、実証分野は活動成果が出現しつつある。しかしながら、当初計画では対象作物が絞り込まれてこなかったため、実証計画、普及方針が明確ではなく、市場への参入方針も曖昧であった。また、同様に作物が絞り込めなかったことから、PDMの成果・活動が作物毎に整理されておらず、POにおける活動内容が明確ではなかった。更に、ドミニカ共和国側C/Pと日本国側関係者のやるべき活動と役割が不明瞭で、関係者がプロジェクト目標を共有していなかったため、関係者の活動がばらばらで散漫なものとなって、成果・目標達成のための連携が図られていなかった。

実施体制については、プロジェクト実施体制がIDIAFの組織体制と整合的でなかったことが、プロジェクト実施過程における円滑な情報伝達及びモニタリングを阻害したため、適時適切な意思決定が阻害された。

これらのことから、今回の調査を通じてプロジェクト目標を整理し、軌道修正する必要が明らかとなり、具体的にはPDMの整理、活動の明確化、担当者の割り当てが必要であることが確認された。また、プロジェクトを円滑に運営するため、プロジェクト実施体制を見直し、指示命令システムを整理する必要性が合わせて確認された。

7. 提言

(1) 直ちに取るべき対策

プロジェクト対象地域の抱える問題を解決し、スムーズなプロジェクト運営を実現するため、以下の行動が必要となる。

1) PDMの改訂

現行PDMのプロジェクト目標である「ラ・ベガ地域の環境保全型農業計画に参加する小農の収入が向上する」が達成されるためには、PDMに記載されてい

る成果のほかにも、達成されるべき多くの課題の解決が必要であることから、同プロジェクト目標を期間内に達成することは困難と判断される。一方、ドミニカ共和国側関係者もワークショップの中で、プロジェクト期間内に目標を達成することが困難であると判断し、本評価調査団に対して目標の変更を提案してきたことから、プロジェクト目標を適正化し、作物を絞り込み、PDM を実現可能なものに修正する。

2) 活動の整理

これまで、プロジェクトが対象とする作物が絞り込まれておらず、活動範囲が広すぎたことから、未着手の活動が多く、プロジェクト目標達成に向けた実証、普及、流通活動は、散漫な活動となり、一貫した活動になっていなかった。今回の評価結果を受けて、作物を絞り込み、市場のニーズに合わせた生産活動を実施するための実証を行い、市場ニーズに合った作物の品質を確保する。さらに、作物生産の技術情報を共有し、市場ニーズに合った生産技術を普及することが必要である。また、PDM の修正に合わせて、これまで不明確であった活動項目を明確にするとともに、各項目の担当者を明示する必要がある。

3) ボカシ工場を PDM の投入から削除

ボカシ工場からのボカシの調達、PDM の投入に掲げられているが、同工場の操業が過去 1 年余り停止され、当面再開のめどが立っていないことに加え、同工場の操業はプロジェクトではコントロールできないことから、PDM からは削除することとする。

4) 実施体制の整理

プロジェクト実施体制と、IDIAF の組織体制の不整合を考慮すれば、IDIAF 北部センター所長は、スーパーバイズのみならずプロジェクト活動に沿った日常の業務管理、情報収集・伝達、人員配置等を含めた運営面にも関与すべきである。かかる観点から、活動計画（PO）や予算の策定等のプロジェクトの重要事項の決定において、IDIAF 北部センター所長、プロジェクトダイレクター及び JICA チーフアドバイザーの三名が、共同で関与する体制の強化が求められる。

また、ドミニカ共和国側、日本国側双方すべてのプロジェクト関係者が、プロジェクト目標を共有して、共通のビジョンの下に協働する必要がある。

5) モニタリングの実施、情報伝達・コミュニケーションの徹底

これまで、プロジェクトのドミニカ共和国関係者と JICA 関係者の情報伝達、連携が十分ではなかったことから、例えば、プロジェクトでは作物毎の班会議を毎週行い、業務報告及び週間計画を班内で共有し、プロジェクト全体での進捗状況報告会議を月 1 回実施し、さらに IDIAF 本部に対して 4 半期に 1 回の進捗状況報告を行う等により、進捗状況報告を関係者に徹底するとともに、情報の共有を図る必要がある。

6) 投入の限界とその対応

プロジェクトが対象とする作物が多いことから、ドミニカ共和国側関係者が多いが、専門家の派遣を含め日本国側の投入が限られている。今後のプロジェクト運営に当たっては、ドミニカ共和国側が配分された C/P 予算を確実に執行する

とともに、活動の優先順位を付けることが求められる。また、日本国側予算の枠を考慮したプロジェクト運営を心がける必要がある。

(2) 将来的に望まれる対策

プロジェクトは終了後、ドミニカ側だけで自立発展的に継続されてゆく必要があり、自立発展性確保のために以下の対応が必要である。

1) プロジェクト内の関係強化

本プロジェクトは、実証部門の担当である IDIAF 研究者と、農務省 (SEA) から IDIAF に出向している普及員が、相互のコミュニケーションや連携に基づいて実施している案件であるが、両者の間の連携がこれまで十分には図られてこなかった。両者の良好な連携が、プロジェクト終了後の自立発展性の確保にとって重要であるところ、両者の関係を強化する必要がある。

2) 関係者の意識の醸成

本プロジェクトの目標として、農家の収入向上を掲げているが、小農の収入向上に向けた道のりは容易ではない。したがって、今回プロジェクト目標のレベルを修正したことから、プロジェクトの自立発展に向けた不断の努力が必要不可欠であり、これまで以上に、実施体制の整備、プロジェクト関係者の自覚、相手国政府の支援、関係農家の自覚の醸成を継続的に行う必要がある。

ドミニカ共和国北部中央地域環境保全型農業開発計画 PDM (第2版、2006年1月26日)

対象農家 : 所有農地 20 タレア以下の小農 250 戸 (在 La Vega 4,000 戸の小農の内; 2000 年の農業センサスより)

活動地域 : 農業区分 4-1 “La Vega”、内の 5 小区分 (Jarabacoa, La Torre, Cutupu, Barranca 及び Rincon)

実施期間 : 2004 年から 2009 年 (5 ヶ年)

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p>上位目標</p> <p>環境保全型農業と有機農業を実践する農家が増え、農産物の流通が増大することにより、La Vega 地域の農業分野が活性化される。</p>	<p>指標</p> <p>農産物の流通が増大することにより、La Vega 県の農業分野が活性化される。対象農家の収入が 15% 増加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2012 年までに地域市場への農家の農産物販売量が 2004 年と比較して 30% 増加する。 2012 年までに農産物の輸出量が 2004 年との比較で 10% 増加する。 <p>環境保全型農業及び有機農業を実践する農家が増える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2012 年までに 1,000 戸の農家が環境保全型農業の研修を受け、環境保全型農業が実践される。技術を活用する。 	<p>入手手段</p> <p>政府広報</p> <p>プロジェクト最終報告書</p>	<p>外部条件</p> <p>国の環境保全型農業政策が維持されること</p> <p>国際的な農産物流通において激変が無いこと</p> <p>天候不順がないこと</p> <p>極端な農産物の価格変動がないこと</p> <p>極端な農業資材の価格変動がないこと</p> <p>甚大な農産物に対する病虫害が発生しないこと</p>
<p>プロジェクト目標</p> <p>La Vega 地域の環境保全型農業計画に参加する小農の収入が向上する。</p>	<p>プロジェクト終了時点:</p> <p>プロジェクト対象地域の農家の収入が向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象農家 250 戸の収入が 15% 増加する。 対象農家の 50% がプロジェクトの流通事業に参加し、農産物の販売量が 20% 増加する。 	<p>政府広報</p> <p>プロジェクト最終報告書</p>	<p>天候不順がないこと</p> <p>極端な農産物の価格変動がないこと</p> <p>極端な農業資材の価格変動がないこと</p> <p>甚大な農産物に対する病虫害が発生しないこと</p> <p>農務省、IDIAF の予算執行が順調に行われること。</p>
<p>成果:</p> <ol style="list-style-type: none"> La Vega 地域に適合した環境保全型農業及び有機農業技術が開発・実証される。 小農に適合した低コストで生産性の高い農業技術と環境保全型農業の技術が普及・実践される。 	<ol style="list-style-type: none"> 農家の環境保全型農業生産技術が向上する。 <p>プロジェクト終了時:</p> <ul style="list-style-type: none"> 土壌肥料、農業生産技術、病虫害防除の各技術において、それぞれ 5 つの実証された技術が広報普及される。 		<p>天候不順がないこと</p> <p>甚大な農産物に対する病虫害が発生しないこと</p> <p>農務省、IDIAF の予算執行が順調に行われること。</p>

ドミニカ共和国北部中央地域環境保全型農業開発計画 PDM (第2版、2006年1月26日)

対象農家 : 所有農地20ヘクタ以下の小農250戸 (在 La Vega 4,000戸の小農の内; 2000年の農業センサスより)

活動地域 : 農業区分4-1 “La Vega”、内の5小区分 (Jarabacoa, La Torre, Cutupu, Barranca 及び Rincon)

実施期間 : 2004年から2009年(5ヵ年)

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p>3. 対象農家の市場へのアクセスが改善される。</p>	<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも5種類の一般的な農業栽培・環境保全型栽培・有機農業栽培マニュアルが作成、普及される。 <p>2-1. 環境保全型農業における生産技術の普及プロジェクト終了時:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NGO 1 団体、農業教育機関 4 校、普及員 50 人及び IDIAF を通じた、対象地域の農家の技術普及へのアクセスが拡大する。 ・ 250 戸の農家、75 名の学生及び 50 名の技術者へ農業技術、環境保全型農業技術の研究が最低 5 箇所の展示圃場を通じて実施される。 <p>2-2. 環境保全型農業技術による生産が実施される。</p> <p>プロジェクト終了時:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 200 戸の農家が環境保全型農業を実施する。 <p>3. 市場へのアクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト終了時点で、設置された各種流通システムが運営される。(輸出、全国レベル、地域市場及び e-Market) 		

ドミニカ共和国北部中央地域環境保全型農業開発計画 PDM (第2版、2006年1月26日)

対象農家 : 所有農地20ヘクタール以下の小農250戸 (在 La Vega 4,000戸の小農の内; 2000年の農業センサスより)

活動地域 : 農業区分4-1 “La Vega”、内の5小区分 (Jarabacoa, La Torre, Cutupu, Barranca 及び Rincon)

実施期間 : 2004年から2009年(5ヵ年)

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
活動	投入		
1. 技術開発実証試験	国際協力機構 (JICA)		
1.1. 環境保全型農業に係る土壌肥料の管理に関する技術の開発・実証。(土づくりと化学肥料低減化技術の実証)	1. 専門家派遣 ・長期専門家派遣; 環境保全型農業アドバイザー ・日本人短期専門家派遣; 必要に応じ ・第3国専門家; 有機農業栽培、その他必要に応じ		
1.2. 環境保全型農業に係る病虫害防除に関する技術の開発・実証。(化学農薬低減化技術の実証)	2. 機材供与 ・車両 ・展示圃場で必要となる資機材		
1.3. 環境保全型農業に係る農業生産に関する技術の開発・実証。	・土壌分析、栄養成分分析のための機材 ・普及及び広報に係る資機材		
2. 普及	3. 本邦研修 ・環境保全型農業 ・土壌分析 ・野菜栽培		
2.1. 小農への農業技術及び環境保全型農業技術の普及。	4. 現地活動費 ・プロジェクト活動に必要な経費		
2.2. 普及方法の改善。	農務省 (SEA)		
2.3. 生産者、普及員、学生への農業技術及び環境保全型農業技術の研修事業の実施。	1. 人的配置 ・普及コンポーネントカウンターパート ・普及員15名		
2.4. 普及・研修用資材の作成。			
2.5. プロジェクト広報活動の実施。			
3. 流通			
3.1. 農家調査及び簡易流通調査の実施。			
3.2. 流通体制整備と流通の実施。			

ドミニカ共和国北部中央地域環境保全型農業開発計画 PDM (第2版、2006年1月26日)

対象農家 : 所有農地20ヘクタ以下の小農250戸 (在 La Vega 4,000戸の小農の内; 2000年の農業センサスより)

活動地域 : 農業区分4-1 “La Vega”、内の5小区分 (Jarabacoa, La Torre, Cutupu, Barranca 及び Rincon)

実施期間 : 2004年から2009年(5カ年)

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p>3.3. 生産者及び技術者への流通に関する 研修・訓練の実施。</p>	<p>2. 資機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及活動に必要な機材 <p>3. 現地活動経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SEA カウンタート及び普及員の給与、日当、交通手段 ・その他必要経費 <p>ドミニカ共和国農牧林業試験庁 (IDIAF)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人的配置 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトダイレクター及びプロジェクト地方コーディネーター ・カウンタート (実証、訓練/広報、流通) ・秘書2名 (中央及び地方) 2. 土地建物及び施設 <ul style="list-style-type: none"> ・事務所 (電気・水道・電話等含む) ・土壌・農作物検査のための実験室 ・実証圃場2箇所 3. 資機材 <ul style="list-style-type: none"> ・実証、訓練/広報、流通活動に必要な資機材 4. 現地活動経費 <ul style="list-style-type: none"> ・IDIAF カウンタート及び普及員の給与、日当、交通手段 ・水道光熱費 ・車両その他機材維持費 (燃料費含む) ・消耗品 ・その他必要経費 		

ドミニカ共和国北部中央地域環境保全型農業開発計画 PDM (第2版、2006年1月26日)

対象農家 : 所有農地20タレア以下の小農250戸 (在 La Vega 4,000 戸の小農の内; 2000年の農業センサスより)

活動地域 : 農業区分4-1 “La Vega”、内の5小区分 (Jarabacoa, La Torre, Cutupu, Barranca 及び Rincon)

実施期間 : 2004年から2009年(5ヵ年)

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
	ボカシ有機肥料工場 ・対象農家へのボカシ肥の提供 (必要があれば) 参加農民 ・展示圃場のための土地 (最大5タレア/農家) ・必要な有機農業資材の原材料 ・必要な農具 ・生産のための労働力		

ドミニカ共和国北部中央地域環境保全型農業開発計画 成果実績確認表

	要約	指標	実績 (8月上旬時点)	データ入手先
上位目標	環境保全型農業を実践する農家が増え、農産物の流通が増大することにより、La Vega地域の農業分野が活性化される。	1. 2012年までに地域市場への農家の農産物販売量が2004年と比較して30%増加する。 2. 2012年までに農産物の輸出量が2004年との比較で10%増加する。	地域市場の農産物販売量のデータなし。	プロジェクト
プロジェクト	La Vega地域の環境保全型農業計画に参加する小農の収入が向上する。	3. 2012年までに1,000戸の農家が環境保全型農業の研修を受け、環境保全型農業が実践される。 1. 対象農家250戸の収入が15%増加する。 2. 対象農家の50%がプロジェクトの流通事業に参加し、農産物の販売量が20%増加する。	地域全体 (農家数約12,000戸) では年間3062千ケースを輸出 (2006年) している。 対象農家の輸出量のデータなし。 256戸の農家に技術普及が行われ、プロジェクト対象の農家では、他の農家に比較して環境保全型農業を実践する農家の割合が高い。 対象農家の収入についてのデータなし。	台湾ミッション作成資料 プロジェクト
成果	1. La Vega地域に適合した環境保全型農業技術が開発・実証される。 2. 小農に適合した低コストで生産性の高い農業技術と環境保全型農業の技術が普及・実践される。	1-1. プロジェクト終了時において土壌肥料、農業生産技術、病虫害防除の各技術において、それぞれ5つの実証された技術が広報普及される。 1-2. プロジェクト終了時において少なくとも5種類の一般的農業栽培・環境保全型栽培・有機農業栽培マニュアルが作成、普及される。 2-1. プロジェクト終了時NGO1団体、農業教育機関4校、普及員50人及びIDIAFを通じた、対象地域の農家の技術普及へのアクセスが拡大する。 2-2. プロジェクト終了時250戸の農家、75名の学生及び50名の技術者へ農業技術、環境保全型農業技術の研修が最低5カ所の展示圃場を通じて実施される。 2-3. プロジェクト終了時200戸の農家が環境保全型農業を実施する。	プロジェクトの流通事業としては、INESPREに生産者市場を設置したが、2007年5月以降撤退している。 各技術について試験が実施され、II編の報告書がまとめられているが、広報普及には供されていない。 自然農業の作製と使用ガイドカレンダー、肥料作製マニュアルが作成されている。その他はマニュアルとしてまとめられていない。 農業教育機関2校 (UCATECI, IATESA) にプロジェクトで展示圃場を準備している。また、後者にはプロジェクトの普及員を講師として派遣した。 展示圃場13カ所が設置された。256戸の農家に技術普及を行った。	プロジェクト。対象地区の農民ヒアリング。 プロジェクト。INESPREを訪問 プロジェクト プロジェクト プロジェクト、当該高校長 プロジェクト
成果	3. 対象農民の市場へのアクセスが改善される。	プロジェクト終了時までに、設置された各種流通システムが運営される。(輸出、全国レベル、地域市場及びe-Market)	プロジェクト対象の農家では、他の農家に比較して環境保全型農業を実践する農家の割合が高い。 e-Marketが開設されたが、その後運用されていない。INESPREに生産者市場を設置したが、これに参加した農家は少数であった。	現地コンサルタントの調査結果報告書 プロジェクト

ドミニカ共和国北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画 活動実績・成果表

P0による活動計画 (項目毎)		活動実績
活動	期待される効果・結果	
環境保全型農業技術開発に係る活動計画		
1. 技術開発	環境保全型農業の対象地に適合した技術が確立される。 (技術マニュアルの作成)	
1. 対象地域に適合した農業技術と環境保全型農業技術の開発・実証。		
1.1. 環境保全型農業に係る土壌肥料の管理に関する技術の開発・実証。 (土づくりと化学肥料低減化技術の実証)		
1.1.1. 国内外の環境保全型農業技術の土づくりと化学肥料低減化技術の収集と編集。	ドミニカ共和国の環境保全型農業の土壌肥料に関する情報が編集される。	IDIAFのWeb-Site上にプロジェクトのウィンドウを設置し、関連情報を収集。
1.1.2. 対象地域の土壌調査。	対象地域の土壌の特質が調査される。 (調査報告書)	La Vega 地域、5サブゾーンの土壌検査終了、物理・化学特性、及び農業生産に関する意見を含めた報告書を作成(技術委員会承認済)。
1.1.3. 有機肥料及び同原料(液体、固体)の化学的・物理的性質調査。	現地で生産される有機肥料と同原料の化学的・物理的性質が調査される。 (調査報告書)	地域で利用される主要有機肥料、及び資材、物理・化学特性についての調査終了。報告書を作成(技術委員会承認済)。
1.1.4. 土地毎の作物の要求に応じた有機肥料の作成と評価。	生産・使用されている有機質肥料の施肥効果(及び土壌改善効果)が調査される。 (評価報告書)	ピーマン、トウガラシ、十六ササガ、キャッサバ、トウモロコシ、Musu について、ボカンによる施肥試験を実施。また、プロッコリー、赤 Habichuela、黒 Habichuela、キャベツについて、堀田による施肥試験を実施。 ピーマン、トウガラシ、プロッコリー、赤 Habichuela、黒 Habichuela、キャベツについては報告書作成(技術委員会承認済)。 十六ササガ、キャッサバ、トウモロコシ、Musu について試験中。
1.1.5. マメ科植物の緑肥及び有機肥料原料としての比較試験。	3種マメ科植物の緑肥及び有機質肥料としての効果が調査される。 (試験報告書)	数種類のマメ科植物について生育試験を実施中。優良と思われるものは種子採取用に播種。現在配布用及び試験用に種子生産中。 Crotalaria,ダイズ等で成育、肥料効果等を調査。
1.1.6. その他環境保全型農業に係る土壌肥料の管理に関する実証試験。	土づくりと化学肥料低減化技術が実証される。 (試験報告書)	現地で入手可能な資材を利用し、ボカン肥などの有機肥料を生産し、キャッサバ等による肥料効果試験を実施。報告書作成(技術委員会承認済)。

1.1.7.	技術マニュアルの作成。	有機肥料生産、使用法マニュアルを作成。	土づくり、化学肥料低減化技術に関するマニュアルが作成される。 (技術マニュアル)	有機肥料生産、使用法マニュアルを作成。
1.2.	環境保全型農業に係る病虫害防除に関する技術の開発・実証。 (化学農薬低減化技術の実証)			
1.2.1.	国内外の環境保全型農業技術の化学農薬低減化技術の収集と編纂。	IDIAFのWeb-Site上にプロジェクトのウィンドウを設置し、関連情報を収集。	ドミニカ共和国の環境保全型農業の病虫害防除に関する情報が編纂される。	IDIAFのWeb-Site上にプロジェクトのウィンドウを設置し、関連情報を収集。
1.2.2.	センチュウ及び病虫害防除のための有機資材(自然農薬)評価試験。	La Vega 地域におけるセンチュウの特定及び発生密度調査を実施、報告書作成 (技術委員会承認済)。 La Vega 地域の小農の圃場における病害の診断 (報告書原稿作成済)。 Habichuela への自然農薬と化学農薬の比較試験、報告書作成 (技術委員会未承認)。 未着手。	センチュウ、病虫害防除のための3種の効果的な有機資材(自然農薬)が開発・実証される。 (試験報告書)	La Vega 地域におけるセンチュウの特定及び発生密度調査を実施、報告書作成 (技術委員会承認済)。 La Vega 地域の小農の圃場における病害の診断 (報告書原稿作成済)。 Habichuela への自然農薬と化学農薬の比較試験、報告書作成 (技術委員会未承認)。 未着手。
1.2.3.	病虫害防除のための菌株生産と拮抗効果試験。	2種の菌株を利用した病害防除技術が開発・実証される。 (評価報告書)	2種の菌株を利用した病害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)	2種の菌株を利用した病害防除技術が開発・実証される。 (評価報告書)
1.2.4.	土壌病原菌防除のための拮抗菌類の効果試験。	2種の菌株を利用した病害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)	2種の菌株を利用した病害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)	2種の菌株を利用した病害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)
1.2.5.	環境保全型農業における害虫防除のためのセンチュウ評価試験。	センチュウを利用した虫害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)	センチュウを利用した虫害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)	センチュウを利用した虫害防除技術が開発・実証される。 (試験報告書)
1.2.6.	病虫害防除のための自然農薬、拮抗菌類、センチュウの生産と評価。	病虫害防除のための自然農薬が開発・実証される。 (試験報告書)	病虫害防除のための自然農薬が開発・実証される。 (試験報告書)	自然農薬の製造及び Habichuela への適用試験 (技術委員会未承認)。 未着手。
1.2.7.	その他環境保全型農業に係る病虫害防除に関する実証試験。	化学農薬低減化技術が実証される。 (試験報告書)	化学農薬低減化技術が実証される。 (試験報告書)	化学農薬の製造及び Habichuela への適用試験 (技術委員会未承認)。 未着手。
1.2.8.	技術マニュアルの作成。	病虫害防除技術マニュアルが作成される。 (技術マニュアル)	病虫害防除技術マニュアルが作成される。 (技術マニュアル)	自然農薬作成と使用ガイドカレンダー 未着手。
1.3.	環境保全型農業に係る栽培管理に関する技術の開発・実証。			
1.3.1.	国内外の環境保全型農業栽培管理技術の収集と編纂。	IDIAFのWeb-Site上にプロジェクトのウィンドウを設置し、関連情報を収集。	ドミニカ共和国の環境保全型農業の栽培管理技術に関する情報が編纂される。	IDIAFのWeb-Site上にプロジェクトのウィンドウを設置し、関連情報を収集。
1.3.2.	経済的に重要且つ輸出に有望な伝統品種及び導入品種の特性評価試験。	-キヤッサパ15種の適性試験。(試験中) -サツマイモ推奨品種展示圃場設置、報告書作成 (技術委員会審議中)。 -Chindora、スイカ、チェリートマト、アスパラガス等の適性調査、報告書作成(技術委員会未承認)。 未着手。	市場性の高い作物2種の輸出作物、2種の伝統作物、2種の輸入代替作物栽培技術が開発・実証される。 (試験報告書、栽培マニュアル)	-キヤッサパ15種の適性試験。(試験中) -サツマイモ推奨品種展示圃場設置、報告書作成 (技術委員会審議中)。 -Chindora、スイカ、チェリートマト、アスパラガス等の適性調査、報告書作成(技術委員会未承認)。 未着手。
1.3.3.	各サブゾーンにおける選定作物の播種量(密度)、		市場性の高い作物栽培技術が適地化される。	

	播種期に関する生産試験。	(試験報告書、栽培マニュアル)	
1.3.4.	輪作体系、混栽作物、土壌管理評価試験。	対象地における持続性の高い農業経営技術が開発される。 (試験報告書、栽培マニュアル)	未着手。
1.3.5.	簡易ハウスにおける環境保全型農業栽培試験。	減農薬、肥下低減のための農業技術が実証される。 (試験報告書、栽培マニュアル)	ハウス内におけるキュウリ(ペピーノ)の有機農法と慣行農法の比較試験(試験実施中)。
1.3.6.	雑草管理技術としての水管理に関する試験。	雑草管理技術が開発・実証される。 (試験報告書、栽培マニュアル)	未着手
1.3.7.	土中における有機肥料の作用における気温、土壌、土中水分量、作物の影響評価試験。	効果的な有機肥料効果を得るための施肥法が特定される。 (試験報告書、栽培マニュアル)	未着手
1.3.8.	環境保全型農業栽培技術のコスト分析。	生産コストが明確になる。 (調査報告書、栽培マニュアル)	-キヤツサバの慣行型、環境保全型、有機型施肥法による生産コストの比較。(試験実施中) -実施試験より生産コスト資料の抽出。(トウガラシ、十六ササガ、ピーマン)
1.3.9.	有機農業、環境保全型農業、慣行農業間の生産性及び収益性比較試験。	有機農法、環境保全型農法の生産性が向上する。 (試験報告書、栽培マニュアル)	-トウガラシのポカシ肥施肥比較試験。報告書作成(技術委員会審議中)。 -十六ササガの鶏糞及びポカシ施肥量比較試験。(報告書作成中) -トウガラシのポカシ肥効果試験(試験実施中)
1.3.10.	その他環境保全型農業に係る農業生産に関する実証試験。	生産性の高い環境保全型農業技術が実証される。 (試験報告書、栽培マニュアル)	-キヤツサバの挿し木苗、接木苗、種苗別慣行農法と環境保全型農法による生産性比較試験。(試験実施中) -ナムイモの環境保全型農法による適性試験。(試験実施中)
1.3.11.	技術マニュアルの作成。	環境保全型農業による生産技術マニュアルが作成される。 (技術マニュアル)	未着手。
2.	普及・研修及び広報	対象地域に適合した低コストで生産性の高い農業技術と環境保全型農業が普及される。 (普及マニュアル及び普及資材、広報用資材の作成)	
2.1.	小農への農業技術及び環境保全型農業技術の普及。		
2.1.1.	普及計画の策定。	効果的な普及計画が策定される。 (普及計画書)	年間活動計画書の策定。
2.1.2.	展示圃場の設置。	農業技術の普及及び農家の実習場としての展示圃場が各サブゾーンに設置される。	計13箇所の展示圃場を設置(Cucupú: x, Barranca x, Rincón: x, La Torre: x, Jarabacoa: x)

	(展示圃場、普及計画書)	
2.1.3.	対象農家への普及の実施。 対象農家の農業技術と環境保全型農業技術が普及され、生産性が向上する。 (普及報告書)	展示圃場、農民集会、研修会、実習、農家訪問などを通じ、各種マルチング、混作、耕作地のローテーション、施肥やボカシ肥及び自然農薬の製造や利用などについて普及研修を実施。
2.1.4.	対象農家戸数の増大と普及対象地の拡大。 (普及計画書、報告書)	プロジェクトに参加する農家の拡大のため農務省の各サブゾーンの事務所、農民集会、農家主婦や集落会などへの訪問、集会を実施。対象農家の数は次のとおり。 Cúmpití: 10 人から 50 人へ、 Barranca: 11 人から 53 人へ、 Rincón: 9 人から 36 人へ、 La Torre: 11 人から 56 人へ、 Jarabacoa: 10 人から 61 人へ、 合計 51 人から 256 人。
2.2.	普及のための組織基盤の強化。 プロジェクト終了時点で農家への農業技術普及アクセスが拡大する。 各機関（施設）において環境保全型農業が広報される。 普及アクセス拡大のための計画が策定される。 (評価報告書、計画)	農家が教育機関、NGO 及び民間輸出業者会社等からも農業技術を手でできるようアクセスを拡大する。以下の機関とコンタクトを取った。 教育機関：IATESA、UCATECI、UAFAM 及び Adventista (Bonao) NGO：IRHAC
2.2.1.	農業普及アクセス拡大のための計画策定。	農家が教育機関、NGO 及び民間輸出業者会社等からも農業技術を手でできるようアクセスを拡大する。以下の機関とコンタクトを取った。 教育機関：IATESA、UCATECI、UAFAM 及び Adventista (Bonao) NGO：IRHAC
2.2.2.	展示圃場の設置および普及資材の提供。 (評価報告書、計画書)	IATESA 及び UCATECI に展示圃場を準備中。
2.2.3.	各機関・施設による普及・広報の実施。 (研修・訓練計画書、報告書)	未着手。
2.2.4.	評価及び計画改正。 (評価報告書、新規計画)	
2.3.	生産者、普及員、学生等に対して農業技術と環境保全型農業技術の研修を実施する。	
2.3.1.	各研修計画作成。 (研修計画書)	IATESA、UCATECI 及び IDIAF 間で研修計画案を策定。
2.3.2.	100 名の普及員及び技術者への環境保全型及び有機農業技術研修の実施。 (研修報告書)	農務省普及員、NGO 代表者に対し有機肥料生産 DVD、地域の代表的病害及びキャッサバ生産に関する研修（ブレゼンテーション）を実施。 未着手。
2.3.3.	75 名の農学校生への環境保全型及び有機農業技術研修の実施。 (研修報告書)	
2.4.	普及用資材の作成	

2.4.1.	普及用(農家用)の栽培マニュアルを作成する。	農家用の野菜栽培マニュアルが作成される。 (栽培マニュアル)	未着手。
2.4.2.	普及用(農家用)の環境保全型農業技術に関するマニュアルを作成する。 (土づくり、化学肥料低減化技術、化学農薬低減化技術、有機肥料、自然農薬など)	農家用の環境保全型農業技術に関するマニュアルが作成される。 (技術マニュアル)	自然農薬作成と使用ガイドカレンダー 有機肥料生産、使用方法マニュアル
2.4.3.	普及用資材の作成。	普及用資材が作成される。 (各種普及用資材)	未着手。
2.5.	プロジェクトの広報。		
2.5.1.	各種技術、プロジェクトに関する資料・資材の作成。	各種農業技術、環境保全型農業技術、普及技術、流通及びプロジェクトに関する資料・資材が作成される。 (各種資料・資材)	プロジェクトのパンフレット、及びIDIAFのWeb-Site にプロジェクトのウィンドウを設置。
2.5.2.	作成された各種技術、プロジェクトに関する資料・資材の広報・配布。	各種技術マニュアルが配布され、当国の農業が活性化される。 (報告書)	自然農薬作成と使用ガイドカレンダー配布中。
2.5.3.	プロジェクトのweb-siteの設置。	Web-site が設置され、プロジェクト及び農業技術が広報される。 (web-site)	IDIAFのWeb-Site にプロジェクトのウィンドウを設置。
2.5.4.	各種イベントへの参加。	各種イベントを通じてプロジェクト及び農業技術が広報される。 (報告書)	地域のテレビ、ラジオへの出演と各種農業関連フェアへの参加を通じて有機肥料生産DVD 展示、広報を実施。
3.	流通	対象地域の農家の生産物の販売量が増加する。 (農家調査、市場調査、流通研修計画、同マニュアルほか)	
3.	対象地域の農民の市場へのアクセスを改善。		
3.1.	農家調査及び簡易流通調査の実施。	農家調査、簡易流通調査の結果から、流通の改善計画が策定される。	
3.1.1.	農家調査を実施する。	対象地域の農家の実態が把握される。 (農家調査報告書)	プロジェクト参加農家の調査 (2006年5月) の実施。 農家調査 (JICA 契約：Qualita 社、2006年11月) の実施。
3.1.2.	市場情報の収集 (簡易流通・市場調査)	市場の実態が把握される。 (調査報告書)	輸出業者調査 (2006年12月) の実施。
3.1.3.	生産者情報を蓄積する。	生産物の情報が蓄積される。	未着手。

		(生産者情報サイトの設置)	
3.2. 生産者による流通が実施される。			
3.2.1. 流通計画の策定。		市場へのアクセスが容易となる流通計画が策定される。 (計画書)	未着手。
3.2.2. 流通体制の整備と地域、国内及び海外への流通システムの設定。		共同出荷による市場へのアクセス改善のための体制整備。 市場性の高い農産物が対象農家に作付けされる。 (普及報告書)	価格安定庁 (INESPRE) に生産者市場を設置したが、参加者寡少により撤退。また、e-Market を設置したが未運用。
3.2.3. e-マーケットの設置。		市場が拡大し、農産物の販売量が増加する。 (web-site)	e-Market を設置したが未運用。
3.2.3. 流通の実施と評価。		対象地域の農民が適切な農産物の販売を実施できる。 (評価報告書)	価格安定庁(INESPRE)に生産者市場を設置したが、参加者寡少により撤退。
3.3. 生産者への流通に関する研修・訓練が実施される。			
3.3.1. 流通にかかわる研修・訓練計画を作成する。		対象地域の普及員及び農民の農産物流通にかかわる研修・訓練計画が作成される。 (研修計画書)	未着手。
3.3.2. 流通技術に関する研修用マニュアルを作成する。		流通の研修に必要なマニュアルが作成される。 (研修用マニュアル)	未着手。
3.3.3. 流通にかかわる研修・訓練を実施する。		普及員及び農家の流通知識が向上する。 (研修報告書)	未着手。

北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画 (PAS)

投入実績

1. 専門家

氏名	専門分野	派遣期間
長期専門家		
布施 幸秀	チーム・アドバイザー	2005.05.14～2007.05.13
橋本 敬次	チーム・アドバイザー	2007.06.30～2009.10.14
短期専門家		
村上 文明	参加型計画	2005.02.20～2005.03.21
利光 浩三	実験計画手法	2006.06.11～2006.07.01
匠原 堅一郎	病虫害防除（化学農薬低減化技術）	2007.01.09～2007.02.06
シニアボランティア (SV)		
加藤 愛樹	農業	2002.04.04～2004.11.03
中嶋 實	農業	2004.10.27～2006.10.26
操 靖	農業	2006.10.04～2008.10.03
シニア隊員		
押切 真千亜	プログラム・オフィサー	2005.03.28～2005.03.29
協力隊員 (JOCV)		
田代 正樹	野菜	2003.07.17～2005.10.16
石井 司	野菜	2003.07.17～2006.03.16
渡邊 和之	村落開発普及員	2003.12.04～2005.12.03
熊倉 由子	野菜	2005.04.08～2007.04.07
宇田川 大輔	野菜	2005.07.13～2007.07.12
日向野 桃子	村落開発普及員	2006.03.29～2008.03.28
川名 正洋	野菜	2007.06.20～2009.06.19

2-1. カウンターパート (2007年8月15日現在)

氏名	役職	所属機関
Andrés Gómez	プロジェクト・ダイレクター	IDIAF
Xochilt Estrada	プロジェクト・ローカル・コーディネーター	Centro Norte, IDIAF
Juan Jiménez	研究員 (野菜)	Centro Norte, IDIAF
Leocadia Sánchez	研究員 (野菜)	Centro Norte, IDIAF
Juan Valdez	研究員 (ユカ)	Centro Norte, IDIAF
Ramón Hernández	研究員 (さつまいも)	Centro Norte, IDIAF
Pablo Suárez	研究員 (バナナ)	Centro Norte, IDIAF
Aridio Pérez	研究員 (栄養)	Centro Norte, IDIAF
Elpidio Aviles	研究員 (栄養)	Centro Norte, IDIAF
César Martínez	研究員(経済)	Centro Norte, IDIAF
Ucelvio Santos	普及担当	Centro Norte, IDIAF
Rafal Belliard	農業技術 (農地担当)	Centro Norte, IDIAF
José Cepeda	研究員 (栄養)	CENTA, IDIAF
Hilda Minaya	研究員 (栄養)	CENTA, IDIAF
Rosa Maria Méndez	研究員 (防除/病害)	CENTA, IDIAF
David Mateo	研究員 (防除/線虫類)	CENTA, IDIAF
Saldies Medrano	研究員 (防除/昆虫)	CENTA, IDIAF
Teresa Martínez	研究員 (防除/ウイルス)	CENTA, IDIAF
Cándido de León	普及員 コーディネーター	Centro Norte, IDIAF
Miguel Cepeda	普及員(Cutipú)	Centro Norte, IDIAF
Lautico Reynoso	普及員(Jarabacoa)	Centro Norte, IDIAF
Francisco Niñez	普及員(Rincón)	Centro Norte, IDIAF
Maria Ivelisse de la Cruz	普及員(Barranca)	Centro Norte, IDIAF
Melvin Peña	普及員(La Torre)	Centro Norte, IDIAF
Ángel César	普及員(商業化担当)	Centro Norte, IDIAF

2-2. 本邦研修参加者

氏名	研修コース名	研修期間
	Curso para contrapartes	
Rafal Eduardo Pérez Duvergé	Agricultura Orgánica	2005.03.13～2005.03.26
José Rafael Espaillat Muñoz	Agricultura Orgánica	2005.03.13～2005.03.26
Aridio Pérez	Nutrición en Agricultura Sostenible	2006.03.21～2006.05.03
Rosa Maria Méndez	Protección Vegetal en Agricultura Sostenible	2006.03.21～2006.05.03
Hilda Minaya	Nutrición en Agricultura Sostenible	2006.11.19～2006.12.22
José Cepeda	Nutrición en Agricultura Sostenible	2006.11.19～2006.12.22
	Curso en grupo	
Johan Antonio Vargas	Técnica de Sistema de Información Agrícola	2005.01.23～2005.04.24
Candido de León	Tecnología de Cultivación Vegetal	2005.02.01～2005.11.19
Francisco Núñez	Rol que juega las Cooperativas Agrícolas en la Activación de Economía Rural	2005.05.10～2005.07.16
Elpidio Aviles	Sistema de Manejo de Agricultura de Bajo Insumo	2005.07.24～2005.11.06
Lautico Reynoso	Establecimiento de la Red Centro Americana y Caribe para Desarrollo Rural Participativo	2005.10.16～2005.12.17
Maria Iveliss de la Cruz	Establecimiento de la Red Centro Americana y Caribe para Desarrollo Rural Participativo	2005.10.16～2005.12.17
Mélvín Peña	Metodologías de Extensión de la Técnicas de la Agricultura Orgánica en Apoyo a los Agricultores de Pequeñas Escalas	2006.07.04～2006.10.04

3. ローカルコスト負担：日本側（2004.10.15～2007.3.31）

(RD\$)

項目	2004年度	2005年度	2006年度	累計
一般業務費	35,712.00	1,121,828.03	1,495,526.00	2,653,066.03
日当	0.00	48,800.00	46,100.00	94,900.00
謝金	0.00	31,205.00	160.00	31,365.00
会議費	0.00	4,640.00	18,214.00	22,854.00
工事費	1,314,051.00	0.00	0.00	1,314,051.00
合計	1,349,763.00	1,206,473.03	1,560,000.00	4,116,236.03

*日本の会計年度：4月1日～3月31日

4. ローカルコスト負担：ドミニカ共和国側（2004.10.15～2007.3.7）

(RD\$)

項目	合計
北部センター運営費	3,039,000.08
機材購入、電気工事 (CENTA)	1,736,829.94
機材購入、メンテナンス	251,808.21
日当、燃料代 (本部)	267,520.52
給与(本部)	201,474.79
国内外研修費用	61,184.55
パンフレット作成	18,311.52
普及員、作業員等の給与	5,448,915.50
合計	11,025,045.11

5. 供与機材リスト
5-1 供与機材

購入年度	機材名	価格 (RD\$)	価格 (US\$)	数量	使用場所	使用状態	維持管理	使用目的	その他
2004	Inversor Trace 3.5k 24V con 8 baterias e instalacion	60,672.00		1	事務所	良好	良好	事務所用	
2004	Aire Acondicionados Split 36000BTU	121,000.00		2	事務所	良好	良好	事務所用	
2004	Camioneta Nissan Frontier Doble Cabina Año2005		18,780.00	1	IDIAF	良好	良好	専門家が使用	EX01179
2005	Camioneta Nissan Frontier Doble Cabina 4WD, 2006		20,300.00	1	事務所	良好	良好	プロジェクト活動用	OC10297
2005	Camioneta Nissan Frontier Doble Cabina 4WD, 2006		20,500.00	1	事務所	良好	良好	プロジェクト活動用	OC05722
2005	Motocicleta Honda NRX 125 CC, 2006	400,000.00		5	事務所	良好	良好	普及用	
2005	Sistema de Riego Por Goteo (Ponton)	83,261.50		1	Ponton 試験場	不良	良好	試験場用	En reparación
2005	Sistema de Riego Por Goteo (Limonal)	230,241.00		1	Limonal 試験場	不良	良好	試験場用	En reparación
2005	Materiales de Invernadero Artesanal (①720 m ² de plástico transparente 150 micra, ②720 m ² de sarán a 35%, ③500 m ² de malla antivírus 50 mesh, ④80 nebulizadores palaplast)	96,096.00		1 juego (para2)	Ponton, Limonal 試験場	良好	良好	試験場用	
2005	Motocultor Agrícola, VINKYNO, Modelo MK-120-S	209,300.00		1	Ponton 試験場	良好	良好	試験場用	
2005	Dispenser: bottle top Wheaton 1-5 ml		375.90	1	CENTA	良好	良好	土壌研究所用	
2005	Dispenser: bottle top Wheaton 10-109 ml		787.50	1	CENTA	良好	良好	土壌研究所用	
2005	Dispenser: bottle top Wheaton 10-59 ml		1,071.00	2	CENTA	良好	良好	土壌研究所用	

2005	Dispenser: bottle top Wheaton 1-10 ml.			724.50	2	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Dispenser: Wheaton low profile bottle top			350.60	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Dilutor Hamilton 540b			4,556.06	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Refrigerador para reactivos 16 pie cúbico			983.00	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Reagent syringe 10 ml for dilutor Hamilton			67.20	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Destilador agua: Glass still Mega-Pure 11A			8,716.00	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Glass still immersion heaters for MP 11A			631.98	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Horno para muestras foliares 5.0 pie cubic			4,235.70	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Soil color book munsen			130.00	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	UPS de 2 KW			683.00	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Reciprocating shaker			1,678.95	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Utility box for reciprocating shaker			213.15	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Lengthwise bar clam for utility box			39.90	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Crosswise bar clamp for utility box			37.80	1	CENTA	良好	良好	土壤研究所用
2005	Microscopes trinocular 4x-10x-40x-100x R			2,574.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Microscopes binocular stereo zoom 10.5x-40x			615.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Biotek Elisa ELx50			9,504.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Termociclador para PCR			3,027.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Electric Sterilizer 120 V 25QTS			894.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Refrigerador conservador de muestras puerta vidrio			1,353.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Centrifuge Kelly			1,874.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所
2005	Hematocímetro, Nebauer chamber			108.00	1	CENTA	良好	良好	野菜防除研究所

	brightline																		
2005	Bomba Mochila Shindaiwa 20 lts	40,000.00 (20,000.00 x 2)			2	Ponton, Limonal 試 験場	良好	良好	良好	試験場用									
2006	Varian AA240 FS Fast Sequential Atomic Absorption Unit		27,659.75		1	CENTA	良好	良好	良好	土壌研究所用									
2006	Cámara de flujo Laminar 26x36 110V 60Hz		3,000.00		1	CENTA	良好	良好	良好	野菜防除研究所									
2006	Filtro Hepa para flujo laminar 0.3 um		250.00		1	CENTA	良好	良好	良好	野菜防除研究所									
2006	Lector de Microplato de Elisa / Visible spectrum Multiscan modelo 310		3,030.50		1	CENTA	良好	良好	良好	野菜防除研究所									
2006	Generador eléctrico 5KW Diesel	90,000.00 (45,000.00 x 2)			2	Ponton, Limonal 試 験場	良好	良好	良好	試験場用									
2006	Motocultor Agrícola		2,233.00		1	Ponton 試験 場	良好	良好	良好	試験場用									
2006	Motocicleta 125 cc YAMAHA 125cc		2,300.00		1	事務所	良好	良好	良好	普及用									
2006	Observador Meteorológico		2,862.00 (1,8431.00 x 2)		2	Ponton, Limonal 試 験場	良好	良好	良好	試験場用									
2006	Camara de DVD Panasonic FA-0169607		1,083.00		1	事務所	良好	良好	良好	マニュアル作成									
2006	Camara Digital SONY DSC-T10		1,310.00 (655.00 x 2)		2	事務所	良好	良好	良好	マニュアル作成									
2006	Impresora Canon Image Class MF8180C		50,310.00		1	事務所	良好	良好	良好	マニュアル作成									
2006	Fotocopiadora Canon Image Runner 2020		165,060.00		1	事務所	良好	良好	良好	マニュアル作成									

5-2 供与機材（現地業務費による購入）

購入年度	機材名	価格 (RD\$)	価格 (US\$)	数量	使用場所	使用状態	維持管理	使用目的	その他
2005	Termómetro Higrometro/Termómetro Fisher con Hidrometro	3,694.60		1	Ponton, Limonal 試験場	良好	良好		
2005	Fotómetro Fotómetro Fisher	11,385.40		1	Ponton, Limonal 試験場	良好	良好		
2005	Pipetas	67,706.88		8 (4 variedades x cada 2)	CENTA	良好	良好		
2005	Invernadero Artesania 10m x 30m	132,722.44		1	Ponton 試 験場	良好	良好		
2005	Invernadero (Limonal)	207,892.00		1	Limonal 試験場	良好	良好		
2005	Caseta	22,866.26		1		良好	良好		
2006	Desmalezadora BC-329H	36,000.00		2	Ponton, Limonal 試験場	良好	良好		
2006	Protector Delan tero para Pick-Up	25,300.00		1	事務所	良好	良好		
2006	Protector Trace ro para Pick-Up	21,800.00		1	事務所	良好	良好		
2006	Alarma de Vehic ulo para Pick-Up	2,500.00		1	事務所	良好	良好		
2006	Escritorios Escritorio ND-1060 2gavetas 24×39×29 3/4	32,467.01		6	事務所	良好	良好		
2006	Escritorio Mesa de Trabajo sin gavetas 29×48×29 GrizND-1275	3,031.95		1	事務所	良好	良好		
2006	Sillas Sillón Secretarial Mod501 Negro	9,062.33		7	事務所	良好	良好		
2006	Escritorio	3,031.95		1	事務所	良好	良好		

2006	Mesa de Trabajo sin gavetas 29×48×29 Griz ND-1275												
	Gavetas con rueda												
2006	Archivo Modular Importado 3gavetas con llave, Crema	6,941.44			2	事務所	良好	良好	良好				
2006	Silla Sillón Secretarial Mod501 Pulpa Roja	1,294.62			1	事務所	良好	良好	良好				
2006	Casco	5,400.00			5		良好	良好	良好				
2006	Garaje para Motocicletas	24,511.00			1	事務所	良好	良好	良好				
2006	Almacén	39,100.00			1	事務所	良好	良好	良好				
2006	Tarjeta para Internet Linksys Wireless PCI WMP54G	7,222.50			3	事務所	良好	良好	良好				
2006	Cama para Invernadero 122	11,832.00			1	Limonal 試験場	良好	良好	良好				
2006	Contenedor Plastico 49×33×29cm Rojo	4,299.89			10	Ponton, Limonal 試験場	良好	良好	良好				
2006	UPS Centralion Givox 500VA	1,450.00			1	事務所	良好	良好	良好				
2006	UPS Centralion Givox 500VA	1,450.00			1	事務所	良好	良好	良好				
2006	UPS OMEGA 650VA Griz	1,815.00			1	事務所	良好	良好	良好				

ドミニカ共和国北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画PDM第三版(日本語訳)

作成日:2007年8月14日

協力期間:2004年10月から2009年10月まで

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p>スーパーゴール</p> <p>対象農家の取入が向上する。</p>	<p>対象農家の取入が現状よりも改善している。</p>		
<p>上位目標</p> <p>対象農家が高品質の商品を取り扱う市場(高級市場)に作物を販売している。</p>	<p>2014年10月までに対象農家の7割が高級市場に農産物の8割を販売している。</p>	<p>外部の評価結果</p> <p>プロジェクトの報告書</p>	
<p>プロジェクト目標</p> <p>対象農家が環境保全型農業により生産した作物を高級市場にコンスタントに供給する能力がある。</p>	<p>A 野菜(トウガラシ、ナス、インゲン) プロジェクト終了時において対象農家の45%が質の高い野菜を生産している。</p> <p>B キャッサバ プロジェクト終了時において対象農家の20%が質の高いキャッサバを生産している。</p> <p>C サツマイモ プロジェクト終了時において対象農家の25%が質の高いサツマイモを生産している。</p> <p>D その他作物(プラタノ) プロジェクト終了時において対象農家の15%が質の高いその他作物を生産している。</p> <p>E 上記各作物について プロジェクト終了時までに対象農家の50%が高級市場についてよくわかっている。</p>	<p>プロジェクトの報告書</p> <p>農家調査アンケート結果</p>	<p>作物価格が急激にしない</p> <p>プロジェクトの波及効果が現れる。</p>
<p>成果</p> <p>1. 環境保全型の農業技術が開発・実証・普及している。</p> <p>2. 対象農家が高級市場の情報を得ている。</p>	<p>A 野菜(トウガラシ、ナス、インゲン) プロジェクト終了時に対象農家の内60%が質の高い野菜生産技術を身につけている。</p> <p>B キャッサバ</p> <p>1 プロジェクト終了時に対象農家の内40%がハレンジアナ種のキャッサバを導入している。</p> <p>2 プロジェクト終了時に対象農家の内25%がハレンジアナ種の生産技術を身につけている。</p> <p>C サツマイモ</p> <p>1 プロジェクト終了時に対象農家の内70%が2品種の高品質のサツマイモを導入している。</p> <p>2 プロジェクト終了時に対象農家の内35%が質の高いサツマイモを生産技術を身につけている。</p> <p>D その他作物(プラタノ) プロジェクト終了時に対象農家の内26%がFIAなど質の高いその他作物の生産技術を身につけている。</p> <p>上記各作物について プロジェクト終了時に対象農家の内80%が高級市場の情報を得ている。</p>	<p>プロジェクトの報告書</p> <p>農家調査アンケート結果</p> <p>外部調査報告書</p>	<p>農業資材の価格が急騰しない</p>
<p>活動</p> <p>A 野菜(トウガラシ、ナス、インゲン) (実証)</p> <p>1 トウガラシのダニの防除における低毒性の農業の施用頻度の試験を行う。</p> <p>2 ナスについて農業の施肥量の評価試験を行う。</p> <p>3 育苗箱用土の評価を行う。</p> <p>(普及)</p>	<p>B キャッサバ (実証)</p> <p>1 土壌栄養についての比較試験を行う。</p> <p>2 野菜と化成肥料の適切な使い方を明らかにする。</p> <p>3 収穫後の保存時間と腐敗の関係を明らかにする。</p> <p>(普及)</p>	<p>日本(JICA)</p> <p>1 専門家派遣 長期専門家:環境保全型農業アドバイザー 短期専門家:必要に応じ</p> <p>第三国専門家:必要に応じ</p>	<p>外部条件 予想しなかった病害虫が発生しない</p> <p>ハリケーンの被害に遭わない</p> <p>洪水が起きない。</p> <p>強い竜巻が起らない。</p>

<p>4 グッドプラクティス(適正技術:GAP)に基づく展示園場を1箇所作る</p> <p>5 農業散佈用の器具の設定と散佈回教についてテクニコ(技師)と農家に講習会をする。</p> <p>6 環境保全型の病虫害防除についての講話会とワークショップを開く</p> <p>7 情報記録とグッドプラクティス(適正技術:GAP)についての指導を農家とテクニコ(技師)に対して行う。</p> <p>8 グッドプラクティス(適正技術:GAP)に基づく生産とコストの記録システムを試験的に導入する。</p> <p>9 当該地の用土を貸った苗木を展示する</p> <p>10 ナスの育苗箱での苗木生産についての講話会を行う。</p> <p>11 適正な施肥について4展示園場を設けてそこで展示する。</p> <p>12 線虫の被害と防除についてのワークショップを2回開く。</p>	<p>4 グッドプラクティス(適正技術:GAP)に基づく展示園場を9箇所設ける</p> <p>5 「農場の日」を2回開く</p> <p>6 有機質肥料の分析、サンプリング、施用についての技術指導を行う。</p> <p>7 栽培技術とアサミナマの防除についての講習会を2回行う。</p> <p>8 収穫後処理について2回ワークショップを行う。</p> <p>9 ハレンシア種をマスメディアを使ってPRする。</p>	<p>2 ポラテニア</p> <p>3 機材供与</p> <p>車輦</p> <p>実証用資機材</p> <p>普及用資機材</p> <p>4 研修員受け入れ</p> <p>5 運営経費</p> <p>プロジェクトのローカルコスト負担</p>	<p>普及活動用資機材</p> <p>3 プロジェクト運営経費</p> <p>SEAのカウンターパートの給与、旅費、交通費</p> <p>その他必要経費</p> <p>B IDIAF</p> <p>1 要員経費</p> <p>カウンターのパート</p> <p>秘書</p> <p>2 オフィス、スペース、設備</p> <p>プロジェクト実施に必要なオフィスとスペース</p> <p>土壤と植物分析用ラボ</p> <p>3 資機材</p> <p>実証、研修普及、流通の活動に必要なもの</p> <p>4 プロジェクト運営経費</p> <p>IDIAFのCPFの給与、旅費、交通費</p> <p>電話、電気、ガス、電気代</p> <p>機材の維持管理の経費で、車輛の燃料、オイル代を含む</p> <p>消耗品費</p> <p>その他</p> <p>C 参加農家</p> <p>展示園用の土地</p> <p>肥料等製造のための材料</p> <p>作業用具</p> <p>作業員</p> <p>前置条件</p>
<p>C サツマイモ</p> <p>(実証)</p> <p>1 市場向けの品種の選定を行う。</p> <p>2 B.Bassiana(ゾウムシの天敵菌類)の各品種への影響を明らかにする</p> <p>(普及)</p> <p>3 B.Bassianaを使った5展示園場を設ける。</p> <p>4 B.Bassianaの栽培管理及びPigean(ゾウムシ)の総合防除のための5展示園場を設ける。</p> <p>5 Pigean(ゾウムシ)の総合防除についての案内書ひとつを作る</p> <p>6 B.Bassianaの培養法を指導する。</p> <p>7 Pigean(ゾウムシ)の防除についてのワークショップをテクニコと農家に対して2回行う。</p> <p>8 展示園場において登録システムを導入する</p> <p>9 環境保全型の栽培について技術指導する。</p> <p>10 現産の品質についてのワークショップを行う</p> <p>11 農家に品種を導入する。</p> <p>12 栽培管理の農家回りをを行う。</p>	<p>D その動作機(プラタ)</p> <p>(実証)</p> <p>1 病虫害の発生状況をモニタリングする。</p> <p>2 線虫とSigatoka病のための自然農薬を含む防除法の評価を行う。</p> <p>3 土壤被覆法の評価を行う</p> <p>4 生産されている苗のタイプを比較する。</p> <p>5 質の高い苗木生産モジュールを設ける</p> <p>(普及)</p> <p>6 播種及び栽培システムでの4展示園場を設ける。</p> <p>7 生産物の品質についてのワークショップを行う(1回)。</p> <p>8 「農場の日」を4回開く。</p> <p>9 農家を巡回指導をする(4回)。</p> <p>10 栽培についての講習会ワークショップをテクニコ(技師)と農家に対して1回ずつ行う。</p> <p>11 病虫害対策の評価と管理のワークショップをテクニコに対して1回行う。</p> <p>12 農家の園場から得られた経験についてのパンフレットを1種類作る</p> <p>13 栽培技術についての案内書を作る。</p> <p>14 展示園場における栽培管理の情報を記録し分析する。</p>	<p>3 資機材</p> <p>実証、研修普及、流通の活動に必要なもの</p> <p>4 プロジェクト運営経費</p> <p>IDIAFのCPFの給与、旅費、交通費</p> <p>電話、電気、ガス、電気代</p> <p>機材の維持管理の経費で、車輛の燃料、オイル代を含む</p> <p>消耗品費</p> <p>その他</p> <p>C 参加農家</p> <p>展示園用の土地</p> <p>肥料等製造のための材料</p> <p>作業用具</p> <p>作業員</p> <p>前置条件</p>	<p>普及活動用資機材</p> <p>3 プロジェクト運営経費</p> <p>SEAのカウンターパートの給与、旅費、交通費</p> <p>その他必要経費</p> <p>B IDIAF</p> <p>1 要員経費</p> <p>カウンターのパート</p> <p>秘書</p> <p>2 オフィス、スペース、設備</p> <p>プロジェクト実施に必要なオフィスとスペース</p> <p>土壤と植物分析用ラボ</p> <p>3 資機材</p> <p>実証、研修普及、流通の活動に必要なもの</p> <p>4 プロジェクト運営経費</p> <p>IDIAFのCPFの給与、旅費、交通費</p> <p>電話、電気、ガス、電気代</p> <p>機材の維持管理の経費で、車輛の燃料、オイル代を含む</p> <p>消耗品費</p> <p>その他</p> <p>C 参加農家</p> <p>展示園用の土地</p> <p>肥料等製造のための材料</p> <p>作業用具</p> <p>作業員</p> <p>前置条件</p>
<p>1 高級市場についての情報を集める。</p> <p>2 健康な作物生産とマーケティングについての啓蒙のためのワークショップを行う。</p> <p>3 対象農家と買い手をつなぐためのルートを確認する。</p> <p>4 高級市場にアクセスするための情報を農家に流す。</p>	<p>前置条件</p>	<p>前置条件</p>	<p>前置条件</p>

ドミニカ共和国北部中央地域小規模農家向け環境保全型農業開発計画 活動計画(PO)案

別添3

活動	成果	スケジュール												実施場所	責任者・実施者	費用 (PO枠)	備考
		2007				2008				2009							
		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7				
3. サツマイモ (実績) 3.1 市場向けの品種の選定を行う。 3.2 B.Bassiana (ソウムシの天敵菌類)の各品種への影響を明らかにする (普及) 3.3 B.Bassianaを使った5展示圃場を設ける。 3.4 B.Bassianaの栽培管理及びPlogan(ソウムシ)の総合防除のための5展示圃場を設ける。 3.5 Plogan(ソウムシ)の総合防除についての案内書ひとつを作成 3.6 B.Bassianaの培養方法を指導する。 3.7 Plogan(ソウムシ)の防除についてのワークショップをテウニコと農家に対して2回行う。 3.8 展示圃場において登録システムを導入する 3.9 環境保全型の栽培について技術指導する。 3.10 種苗の品質についてのワークショップを行う 3.11 農家に品種を導入する。 3.12 栽培管理の農家回りを行う。 (流通) 3.13 国内及び海外の流通ルートを設定する。 3.14 市場にかかる情報を集め、生産者に流す。	少なくとも品種が高収量で国内及び海外市場で受け入れられる品種として選定される。 プロジェクト終了時点でソウムシの害が20%減少する。 対象農家の70%がB. bassianaを活用する。 ソウムシ防除の案内書が発行される。 対象農家の70%が自分でB. bassianaを培養する。 研修コースが二回実施される。 対象農家の70%が効果的な情報登録システムを保有する。 対象農家の70%がサツマイモの環境保全型の栽培について理解する。 対象農家に対し2回のワークショップが実施される。 少なくとも品種が農家に導入、使用される。 農家回りが4回行われる。 少なくとも一つの流通ルートが判明する。 対象農家に向けたサツマイモの市場情報が得られる。	2007 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 3年目	2008 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 4年目	2009 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 5年目	実施者 Ramon Herriandez, Rossinia Taveres Ramon Herriandez, Rossinia Taveres Ramon Herriandez, Rossinia Taveres Ramon Herriandez, Rossinia Taveres Rossinia Taveres, Extensionistas y productores Ramon Herriandez, Rossinia Taveres Ramon Hernandez y Extensionistas Extensionistas y Ramon Hernandez Ramon Hernandez y Rossinia Taveres Extensionistas y Ramon Hernandez Angel Cesar y Ramon Hernandez Angel Cesar y Ramon Hernandez	実施場所 Pionón, La Torre, Jarabacoa Pionón, La Torre, Jarabacoa Pionón-Jarabacoa y Baranaca Pionón-Jarabacoa y Baranaca Pionón-Jarabacoa y Baranaca En todas las áreas Baranaca y Jarabacoa Pionón-Jarabacoa y Baranaca En 4 áreas La Vega La Vega	費用 (PO枠) USAF SEA JICA 17,400.00 18,400 30,500.00 30,500.00 25,000.00 25,000.00 14,000.00 5,000.00 20,000.00 9,000.00 17,400.00 24,000.00 6,000.00 6,000.00										

別添 4. 実施体制図改訂版

